

県内(地域・業種別)の経営環境と業況感(2011年10~12月期見通し)

～第45回おきぎん企業動向調査(2011年7~9月期)調査結果より～

I. はじめに

1. 調査の結果

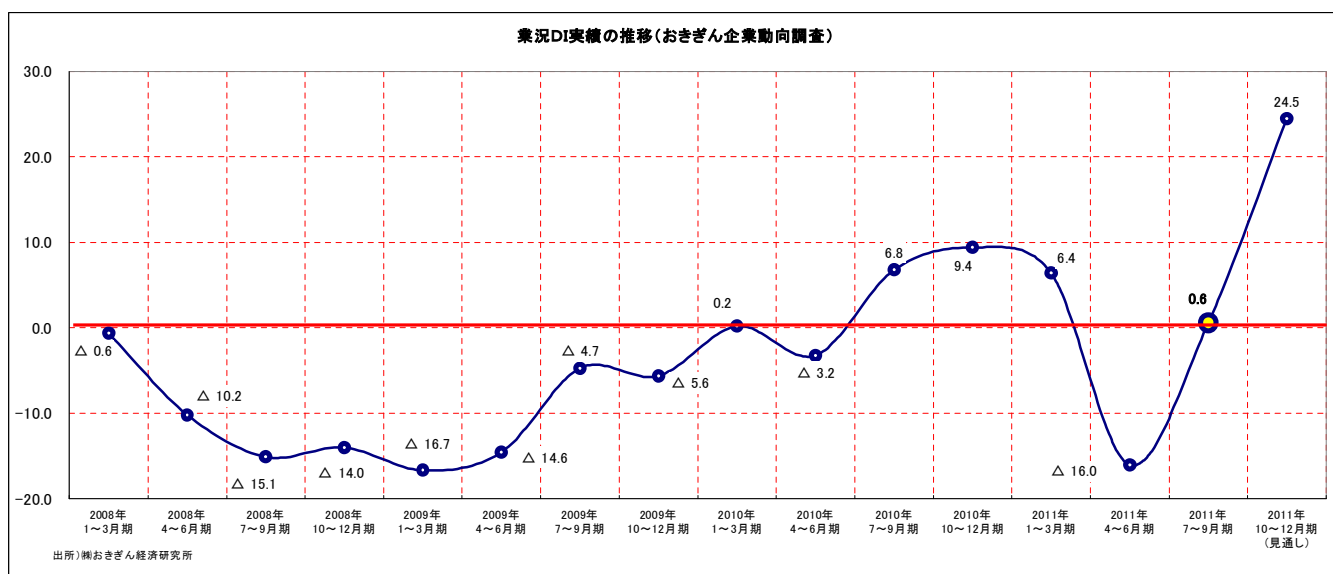
業況DIの推移

期 間 ・ 結 果	2010年		2011年			
	7-9月期	10-12月期	1-3月期	4-6月期	7-9月期	10-12月期(見通し)
項 目	前年同期比DI	前年同期比DI	前年同期比DI	前年同期比DI	前年同期比DI	前期比DI
全 業 種 計	6.8	9.4	6.4	△ 16.0	0.6	24.5
製 造 業	0.0	△ 9.3	△ 8.9	△ 32.1	△ 37.3	39.2
土 木 業	△ 32.1	△ 11.8	△ 6.5	△ 10.0	△ 5.6	40.5
建 築 業	5.5	6.6	17.4	△ 9.1	14.5	31.1
卸 売 業	△ 11.8	△ 3.3	△ 8.0	△ 27.0	△ 6.1	26.8
小 売 業	25.7	18.2	0.0	△ 13.7	10.7	17.3
情報通信サービス業	30.8	33.3	38.5	22.2	8.3	33.3
医療・福祉	29.0	20.0	16.1	22.2	25.0	18.8
その他サービス業(宿泊・飲食等)	22.9	35.7	11.4	△ 48.6	0.0	5.4
その他(不動産、運輸等)	5.6	18.4	19.4	△ 3.8	4.6	17.2

2011年7~9月期調査の業況DIは0.6(前年同期比)となりました。

業種別でみると、建築業、小売業、情報通信サービス業、医療・福祉、その他サービス業で「業況改善の動き」が見られました。一方で公共工事減少などの影響を受け、製造業、土木業、卸売業において「業況の弱さ」が見られます。

2011年10~12月期の業況見通しDIについては24.5となり、すべての業種において「業況改善の動き」が見込まれています。



2. 調査の概要: 本調査は各企業の業況や売上高、売上・仕入単価、収益面等の経営状況項目について、主に経営者の判断(当期実績、次期見通し)をDI(景気動向指数)として取りまとめたものです。

- a. 調査時期: 2011年8月下旬～9月上旬
- b. 調査対象: 県内企業 492社
- c. 調査内容: ①業況 ②売上高 ③売上単価 ④仕入単価 ⑤採算 ⑥引き合い(受注)
⑦雇用 ⑧IT関連投資 ⑨その他の投資(IT以外への投資)

—おきぎんDIについて—

主に企業経営者の業況などに関する実績判断や見通しを「好転・上昇・増加」、「不変(変わらない)」、「悪化・低下・減少」のいずれかでお答えいただき、それらの割合を表したものです(本レポートでは方向性を示すため「悪化・低下・減少」はマイナス表示を用いています)。

①「好転・上昇・増加」+「不変(変わらない)」+「悪化・低下・減少」=100%

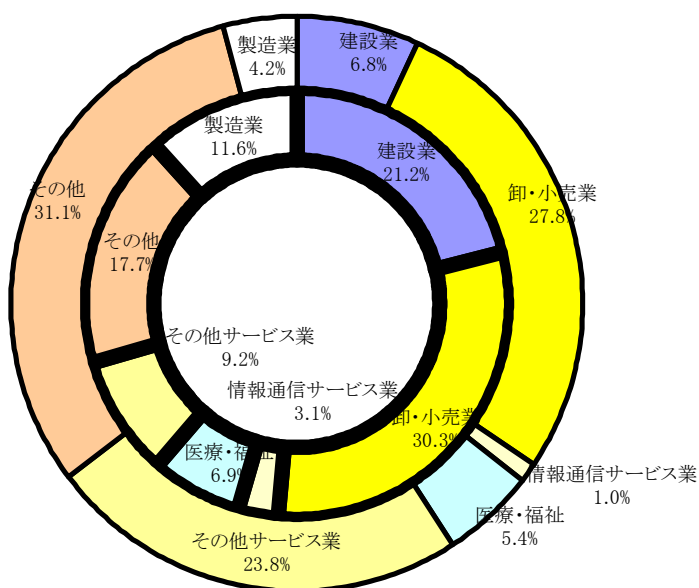
②DI=「好転・上昇・増加」の割合(%)－「悪化・低下・減少」の割合(%)

上記①、②から、DIがプラスなら景気が良い(または上昇見込み)、マイナスなら悪い(または下降見込み)といった具合にご覧いただけます。

3. 調査対象企業の業種・所在地構成

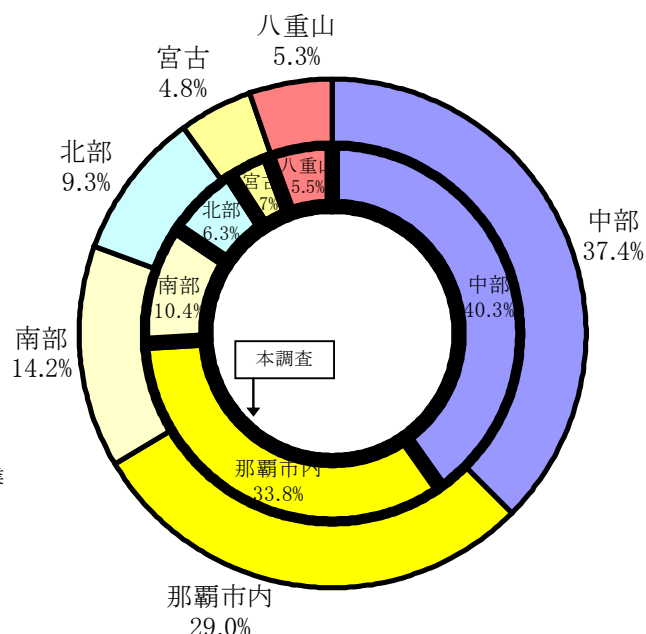
県内の産業別事業所数および事業所所在地構成(2006年事業所・企業統計調査)と比較すると、本調査はその他サービス業(宿泊、飲食等)及びその他(不動産、運輸等)が少なく、製造業、建設業(本調査では土木業・建築業)、卸・小売業が多いサンプリングになっています。なお所在地は、中部、那覇市内で7割を超えるシェアとなっています。

県内の産業別事業所数の構成(外円)、
本調査の回答事業所数の業種構成(内円)



資料) 総務省、当行

県内の事業所所在地構成(外円)、
本調査の事業所所在地構成(内円)



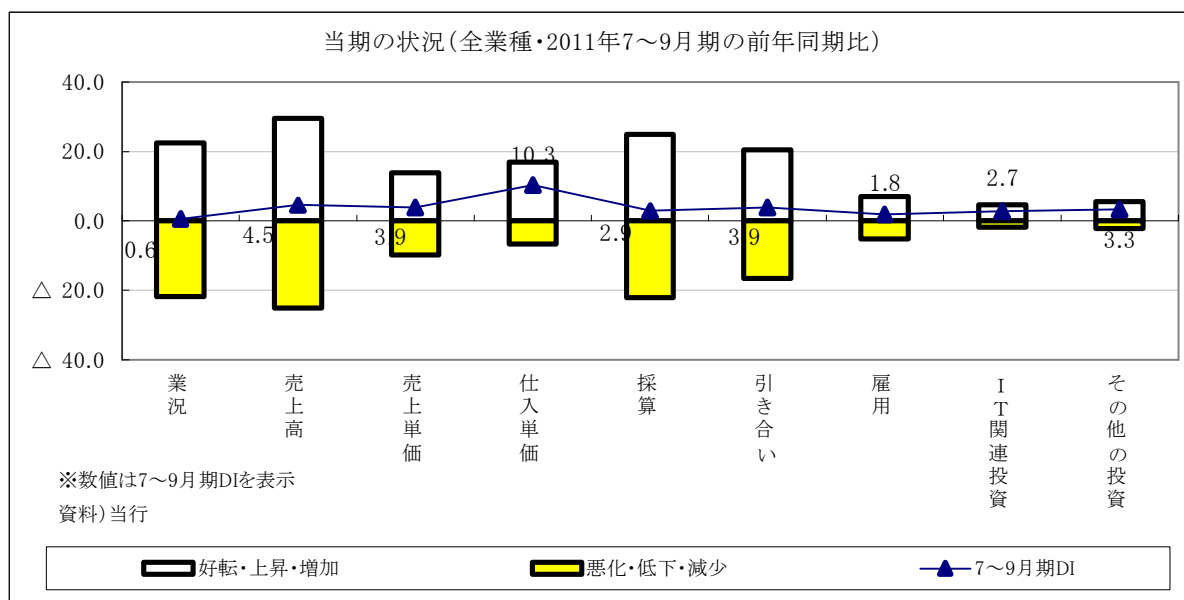
資料) 総務省、当行

II. 調査結果(1) ～おきぎんDI: 県内の経営環境と業況感について～

1. 全業種

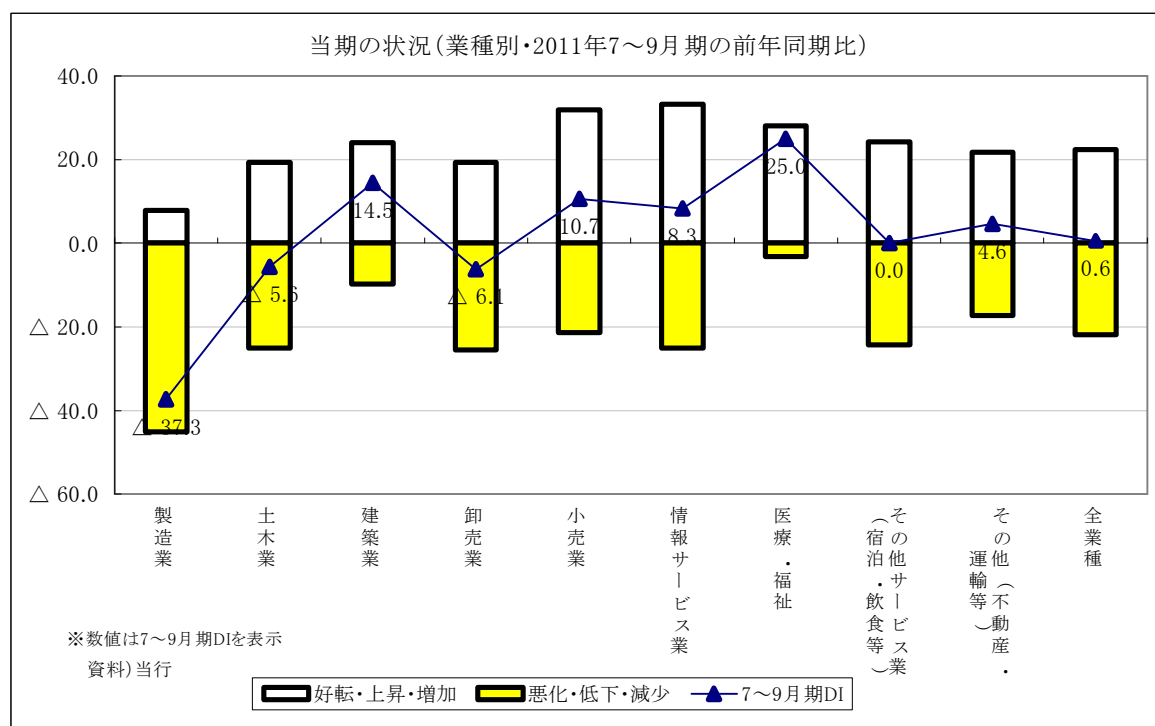
a. ①当期の状況(項目別・2011年7～9月期の前年同期比)

当期の業況DIを項目別で見ると、原油高騰や震災、台風などの影響で仕入単価(10.3)は上昇していますが、旅行自粛ムードの和らぎや前期の取引が今期にずれ込むなどにより、売上高(4.5)、引き合い(3.9)などが好転し、全体の業況は前年とほぼ同水準となっています。



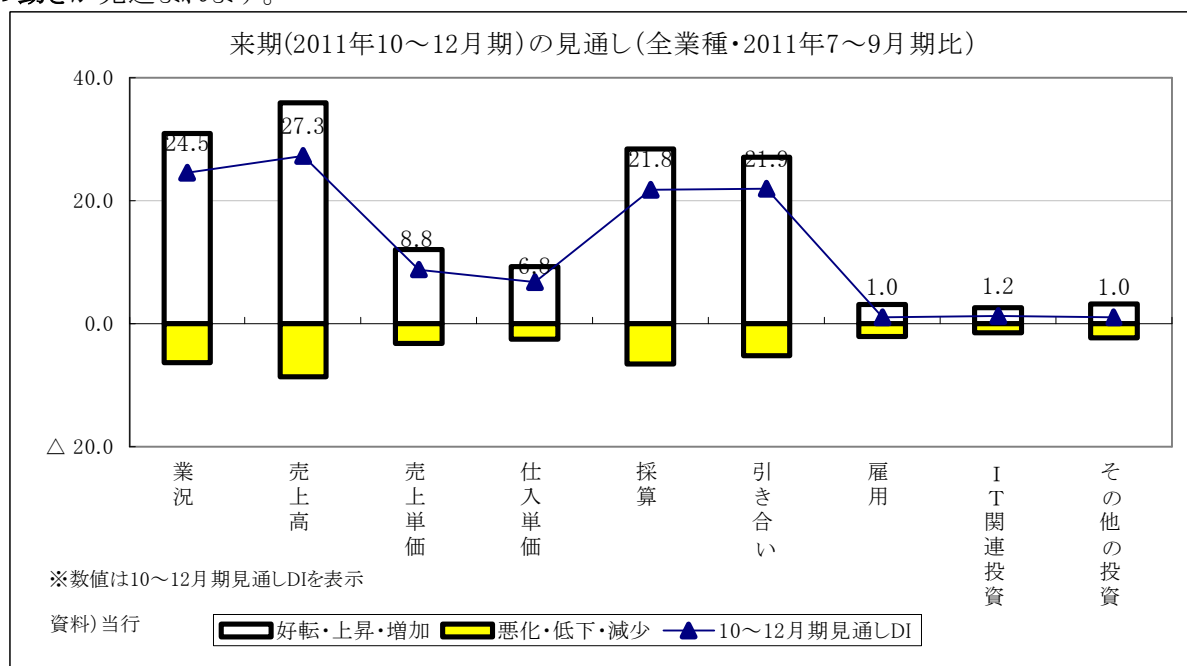
a. ②当期の状況(業種別・2011年7～9月期の前年同期比)

当期の状況を業種別で見ると、製造業(△37.3)、土木業(△5.6)、卸売業(△6.1)は厳しい業況が続いています。一方、建築業(14.5)、小売業(10.7)が回復を見せて、医療・福祉(25.0)や情報サービス業(8.3)は安定的な業況感を示しています。



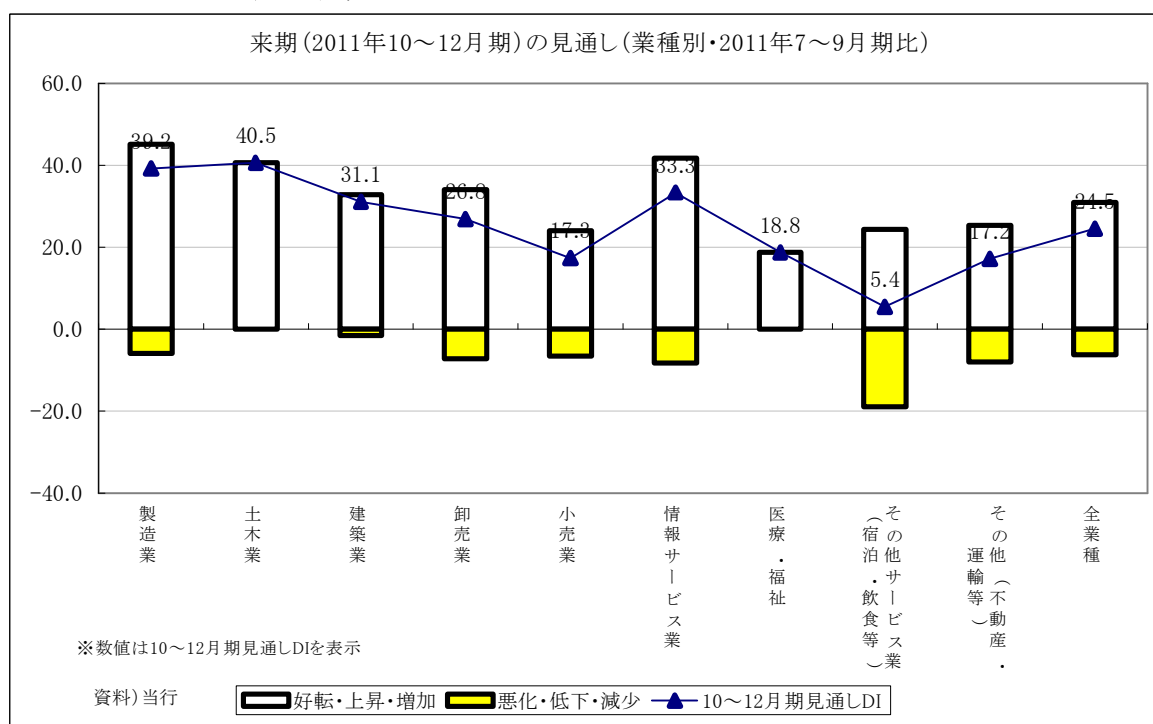
b.①来期の見通し(項目別・2011年10～12月期の2011年7～9月期比)

来期(2011年10～12月期)の見通しDIを項目別で見ると、引続き原油高騰による仕入単価(6.8)の上昇が懸念されるものの、年末に向けての建設、観光需要の増加が期待され、売上高(27.3)をはじめ、採算(21.8)、引き合い(21.9)など全ての項目がプラスとなり、全体(業況:24.5)として**業況改善の動き**が見込まれます。



b.②来期の見通し(業種別・2011年10～12月期の2011年7～9月期比)

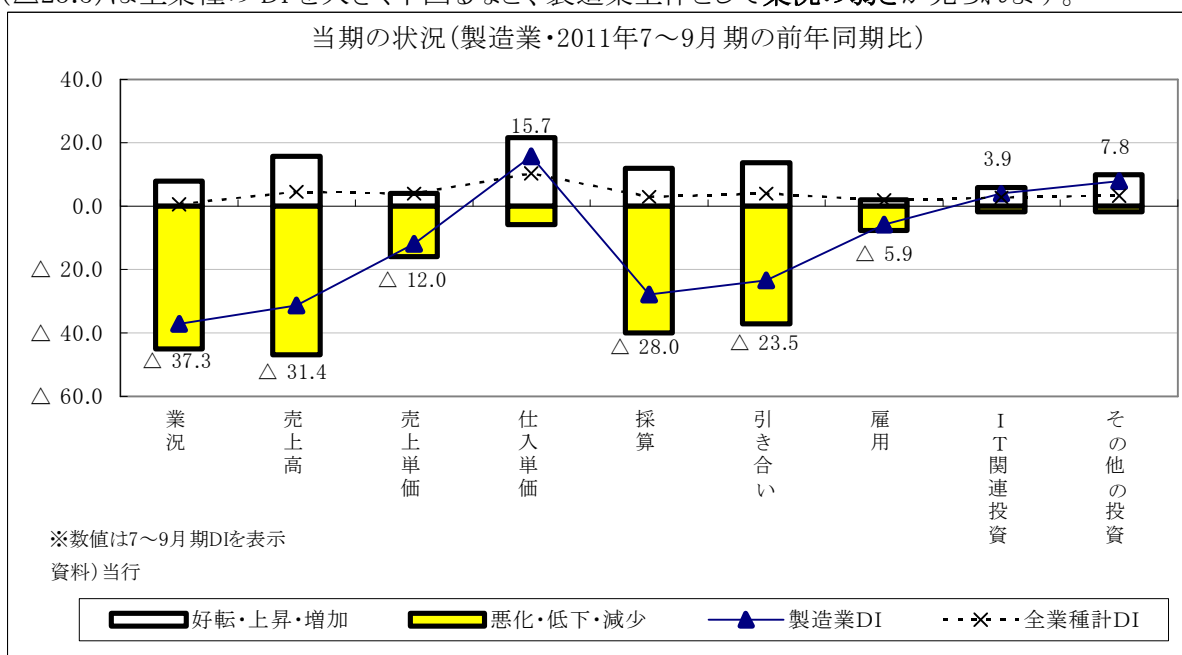
来期(2011年10～12月期)の見通しDIを業種別で見ると、年末向けの公共工事の発注増加による土木業・建築業の好転が期待され、修学旅行などを見込んだ卸・小売業・その他サービス業の持ち直しなど、全体として**業況改善の動き**が見込まれます。



2. 製造業

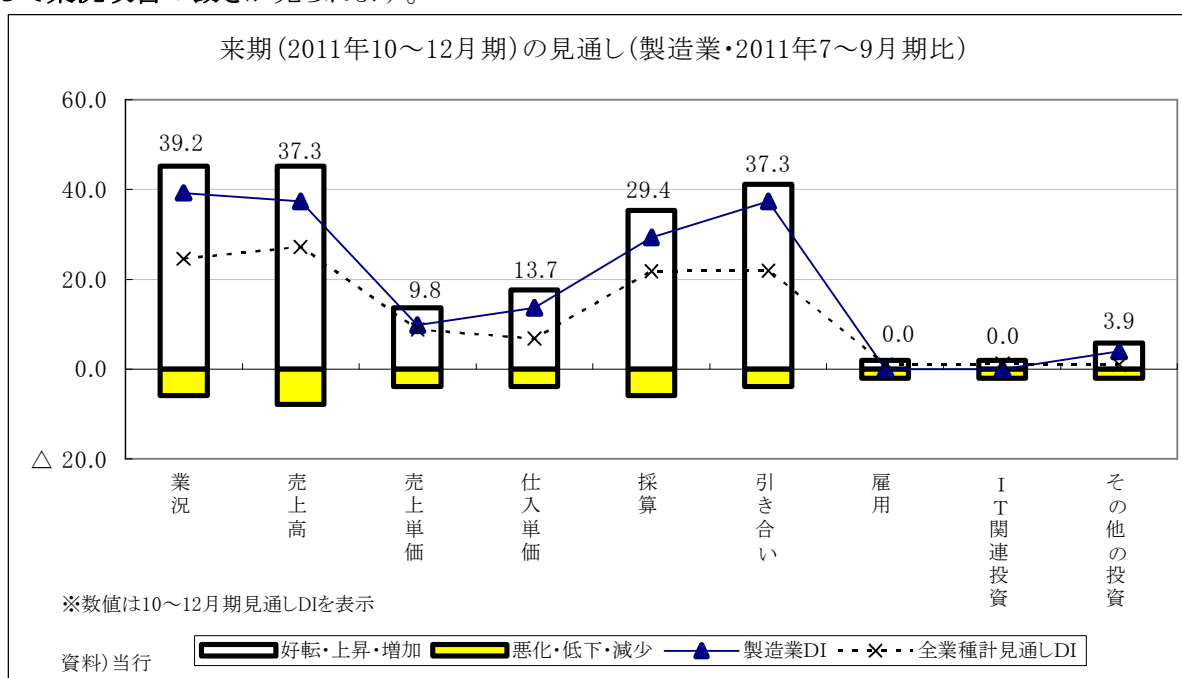
a. 当期の状況 (2011年7～9月期の前年同期比)

製造業 DI を見ると、震災や台風等による観光需要の減少、原油高騰の影響による原材料や包装資材価格の上昇、公共工事の減少など、土産品、泡盛、建設関連等全般で弱含んでいます。東日本大震災の影響は落ち着きましたが、回復には至らず、売上高(△31.4)、採算(△28.0)、引き合い(△23.5)は全業種の DI を大きく下回るなど、製造業全体として**業況の弱さ**が見られます。



b. 来期の見通し (2011年10～12月期の2011年7～9月期比)

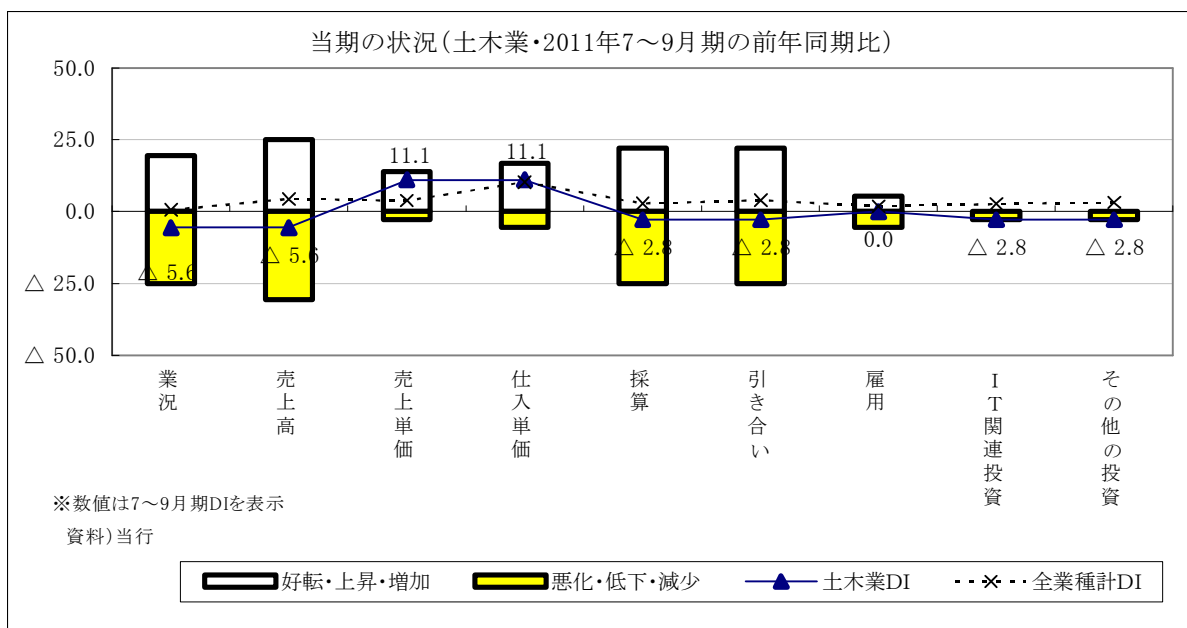
来期の見通し製造業 DI を見ると、引続き原油高騰や夏場(観光のトップシーズン)の反動減が懸念される中、修学旅行や年末・お歳暮などの需要が期待され、業況が好転し、売上高や引き合いの増加が期待されています。建設関連においても年末工事発注が増加する時期であり、製造業全体として**業況改善の動き**が見られます。



3. 土木業

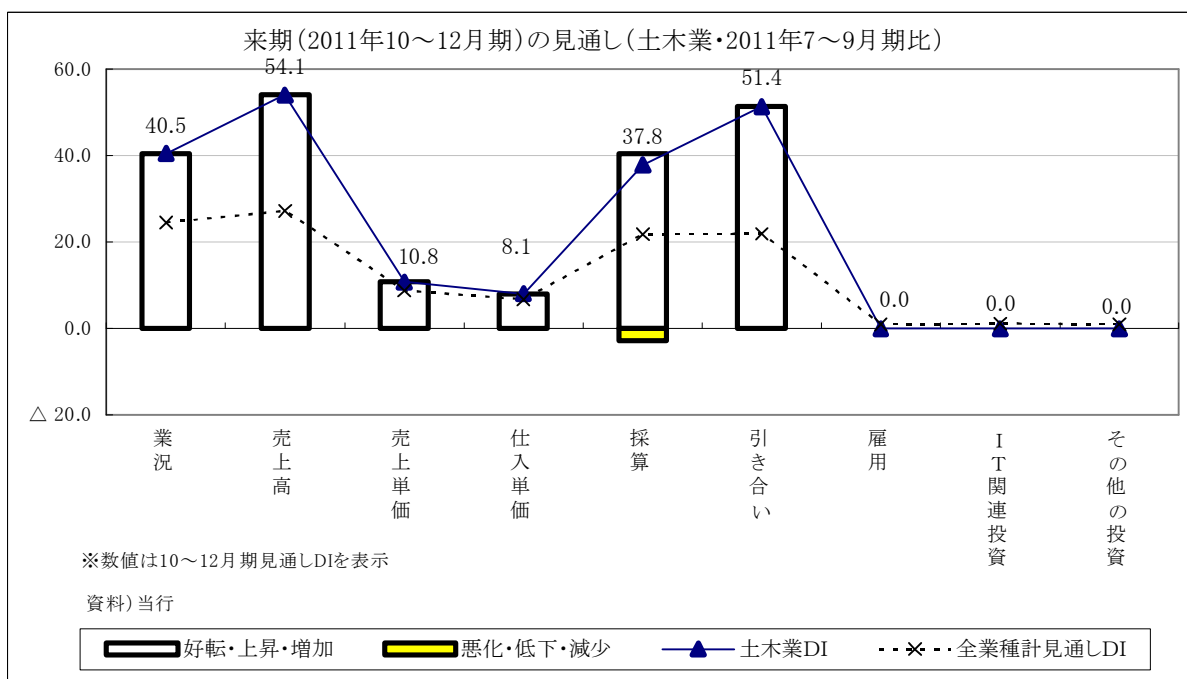
a. 当期の状況 (2011年7～9月期の前年同期比)

土木業DIを見ると、公共工事の受注状況は年々縮小する上、同業他社との競争が激化し、受注環境は厳しい状況が続く一方、民間工事に対する営業活動を積極的に取組んでいます。公共工事の積算能力の向上や民間工事の営業強化などが今後の課題として挙げられています。土木業全体として**業況の弱さ**が見られます。



b. 来期の見通し (2011年10～12月期の2011年7～9月期比)

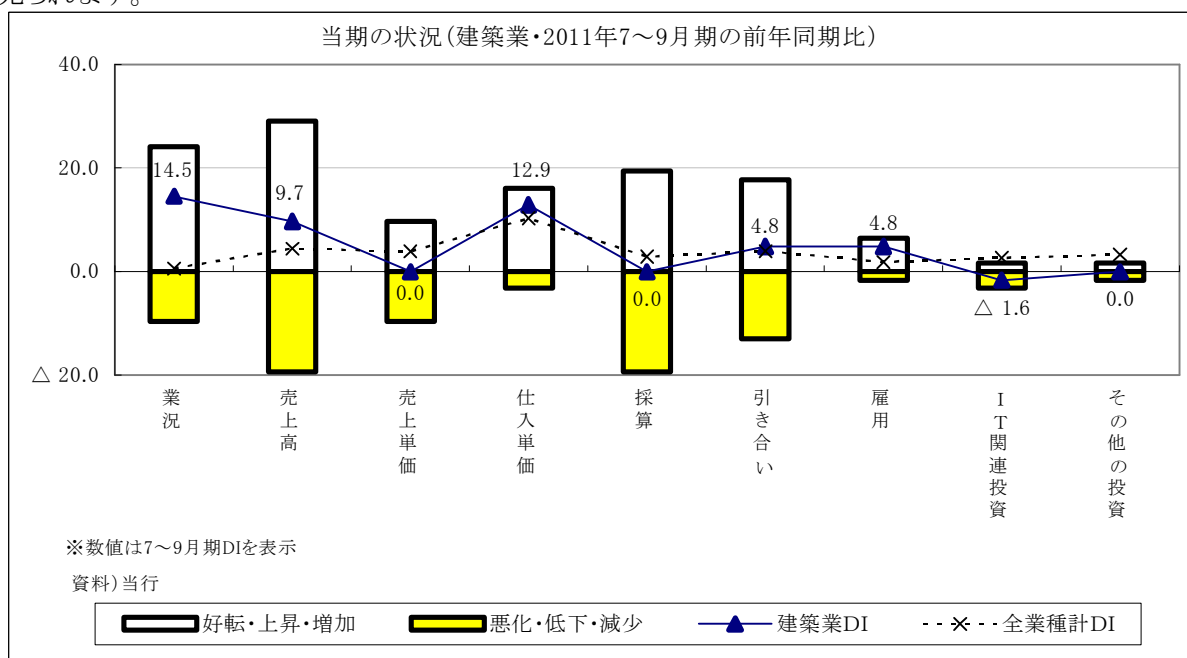
来期の見通し土木業DIを見ると、10～12月期は年度下期に向けて公共工事の需要が増加する時期となり、売上高をはじめ、採算、引き合いの増加が大きく期待されます。また、繰越工事や民間の発注工事の増加を見込んで、土木業全体として**業況改善の動き**が見られます。



4. 建築業

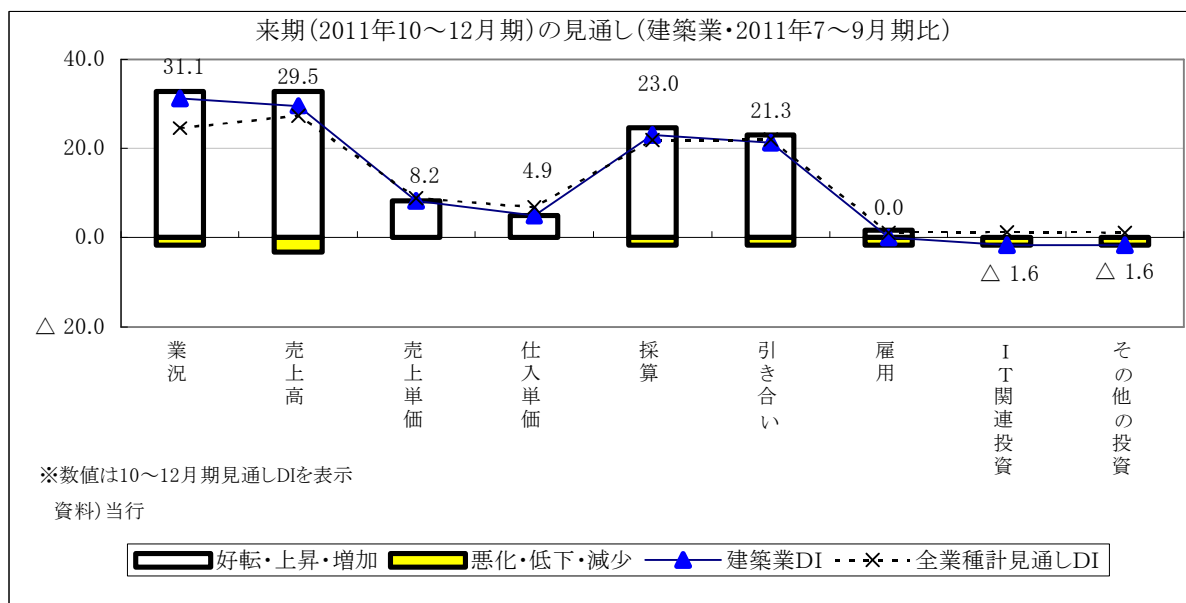
a. 当期の状況 (2011年7～9月期の前年同期比)

建築業 DI を見ると、土木業同様に震災などによる資材調達環境は厳しい状況ですが、台風による復旧工事や太陽光パネルの設置工事の需要に加え、米軍工事の発注も増えています。仕入単価や採算を除いて、業況や売上高などが全業種の DI を上回り、建築業全体として**業況改善の動き**が見られます。



b. 来期の見通し (2011年10～12月期の2011年7～9月期比)

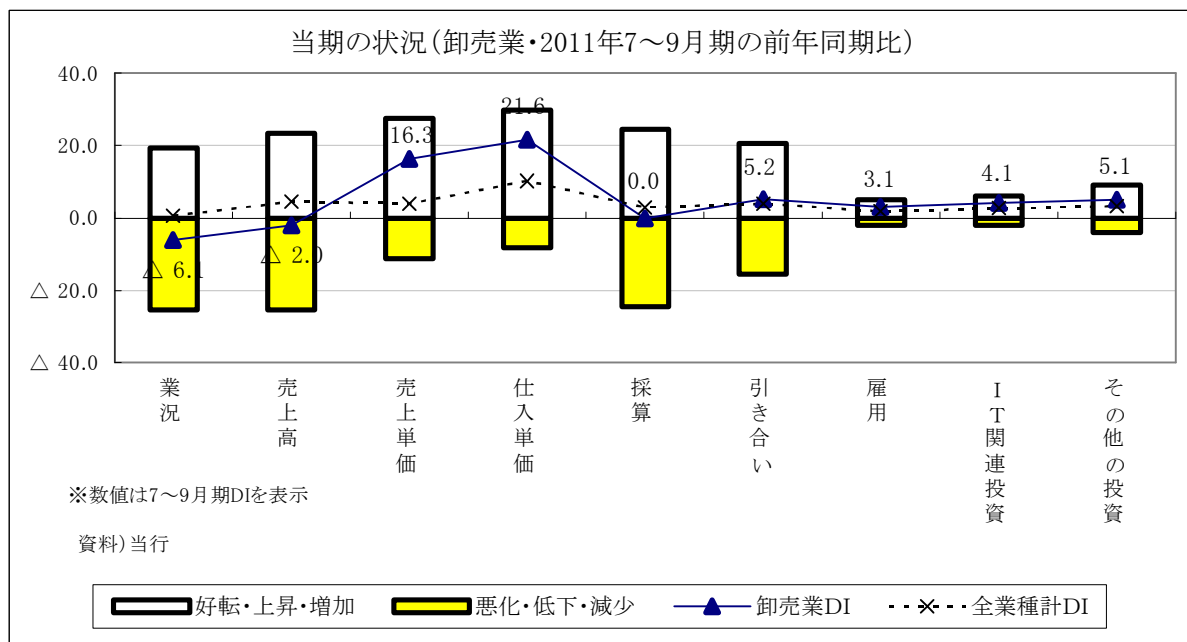
来期の見通し建築業 DI を見ると、土木業同様に年度下期の公共工事増加が期待されます。また、節電などの需要が見込まれる太陽光パネル設置工事や、民間の JV 工事(共同請負)の需要が見込まれます。仕入単価の上昇は懸念されますが、各社とも人件費などの経費見直しに取り組んでおり、建築業全体として**業況改善の動き**が見られます。



5. 卸売業

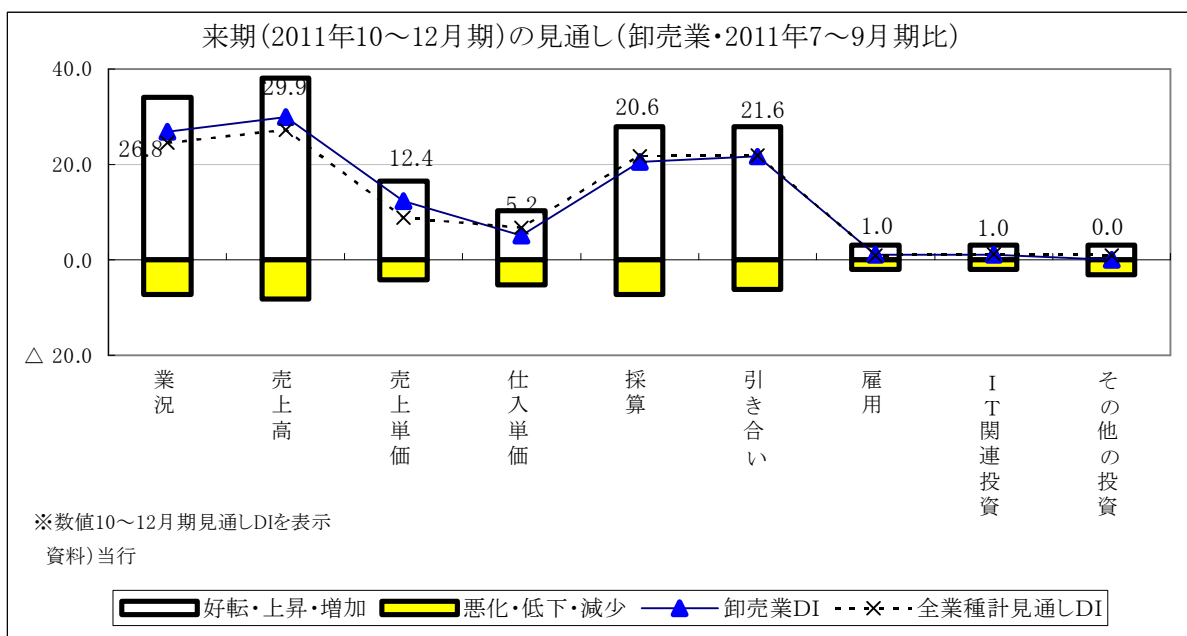
a. 当期の状況 (2011年7～9月期の前年同期比)

卸売業 DI を見ると、震災による仕入遅れや品薄などが未だに一部影響しており、台風や原油高騰による仕入単価の上昇、公共工事の減少による資材の需要減などの動きが見られます。震災の影響は鎮静化しつつも、回復までには至らず、台風などの天候不順による青果物の高騰や、ユッケ等の食中毒騒動による食肉需要低下が続くなど、卸売業全体として**業況の弱さ**が見られます。



b. 来期の見通し (2011年10～12月期の2011年7～9月期比)

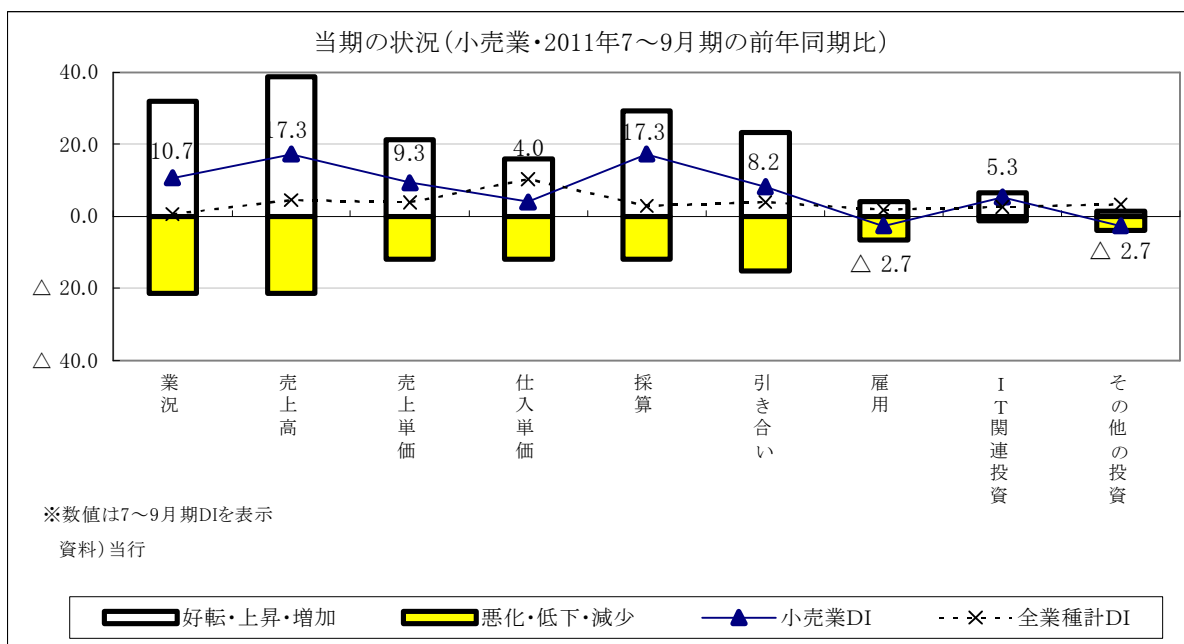
来期の見通し卸売業 DI を見ると、震災の影響が落ち着き、復興作業の特需や年末の公共・民間建設需要に伴う建材調達の増加、修学旅行の需要増加、年末向けの食料品需要の増加などが期待されます。また、仕入・在庫の徹底管理や新規分野の進出などの取組みにより、卸売業全体としては**業況改善の動き**が見られます。



6. 小売業

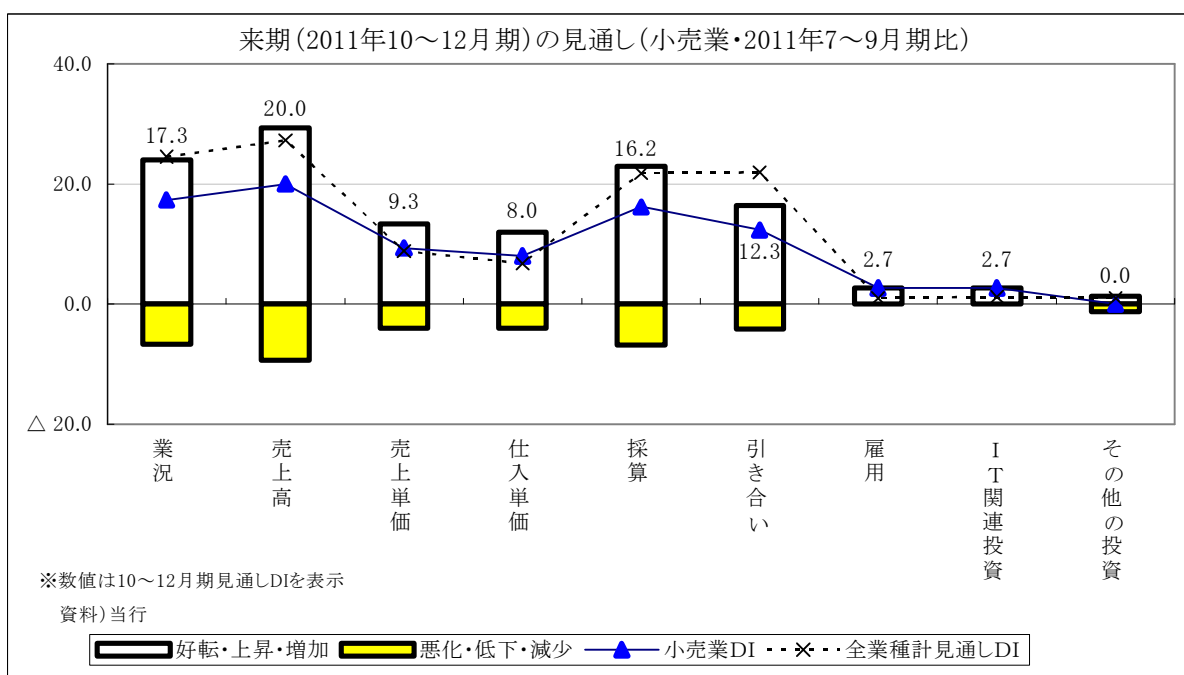
a. 当期の状況 (2011年7～9月期の前年同期比)

小売業DIを見ると、台風など天候不順による影響はあったものの、震災影響の鎮静化による外国人を含む観光客の増加、円高による商品仕入単価の低下、原油高騰による販売価格上昇に伴う売上増加などが見られます。また、個社別による仕入れの見直しやコストの削減などの取組みで、雇用や投資以外ほぼ全業種のDIを上回り、小売業全体では**業況改善の動き**が見られます。



b. 来期の見通し (2011年10～12月期の2011年7～9月期比)

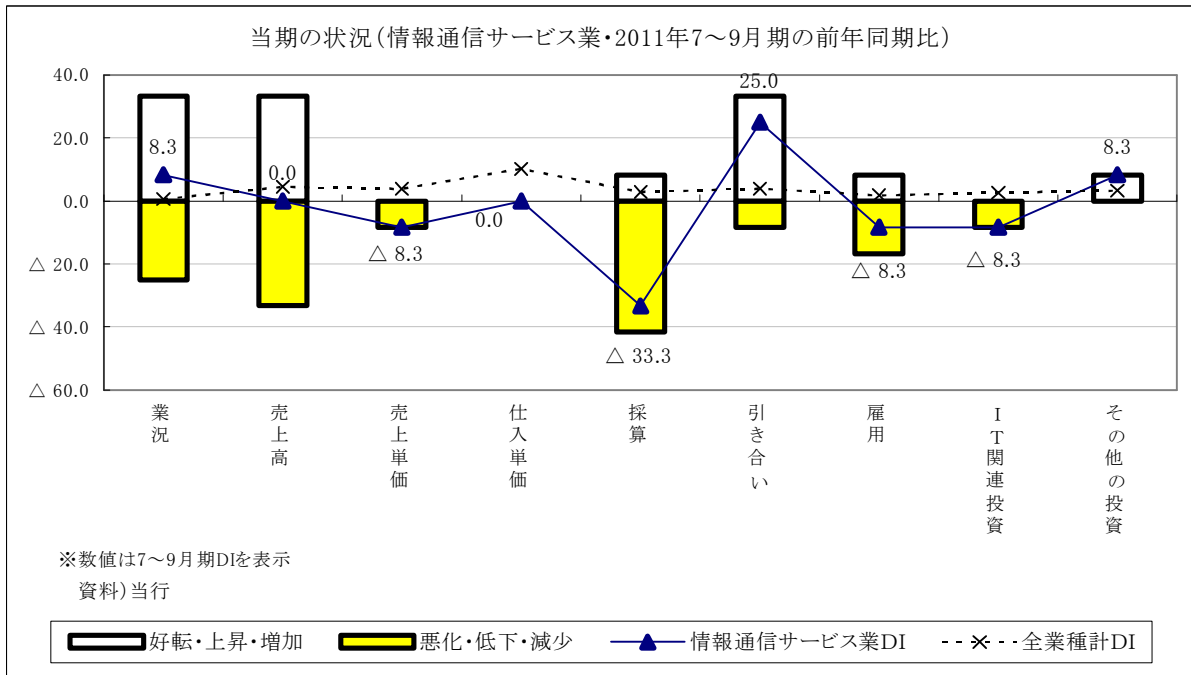
来期の見通し小売業DIを見ると、当期(観光トップシーズン)の反動減や景気先行きの不透明感、為替相場の動向など懸念される要素があるものの、修学旅行など観光需要への期待や、車輛生産の回復による販売増加、年末・お歳暮の需要増など、小売業全体では**業況改善の動き**が見られます。



7. 情報通信サービス業

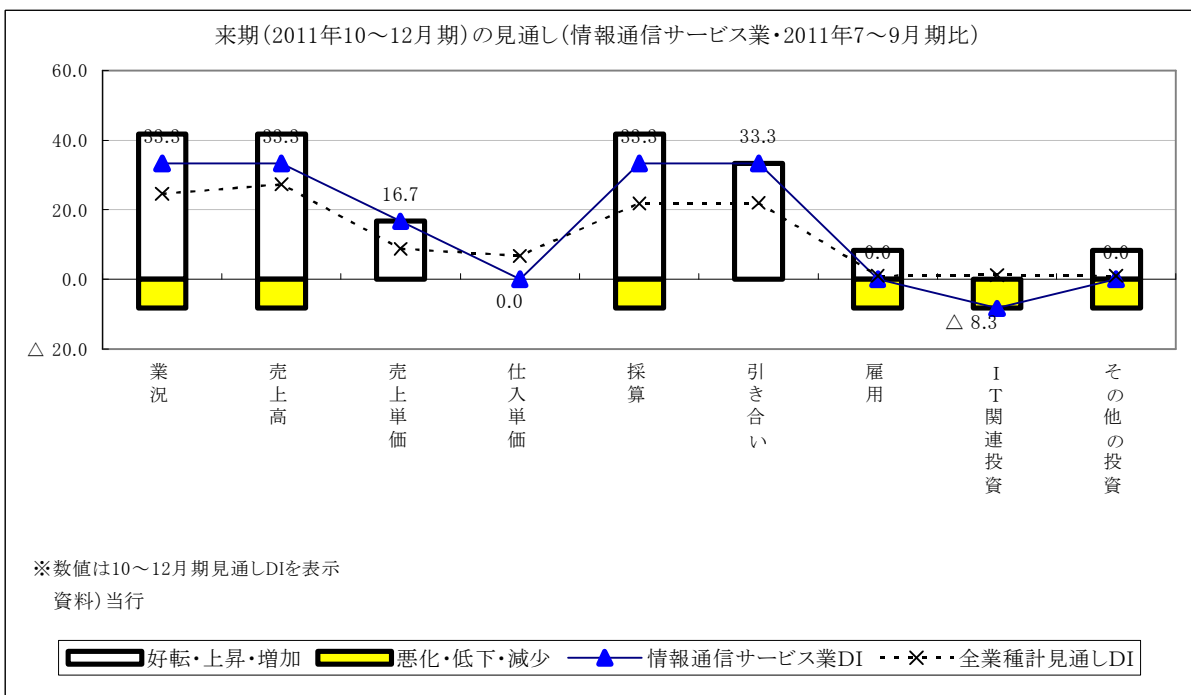
a. 当期の状況 (2011年7～9月期の前年同期比)

情報通信サービス業DIを見ると、震災後、市町村・学校など防災関連システム導入の引き合いが増加しています。一方、公共のIT予算縮小や業界の競争激化、震災による納品遅れや設備投資の予算縮小など厳しい一面もありますが、情報サービス業全体として**業況改善の動き**が見られます。



b. 来期の見通し (2011年10～12月期の2011年7～9月期比)

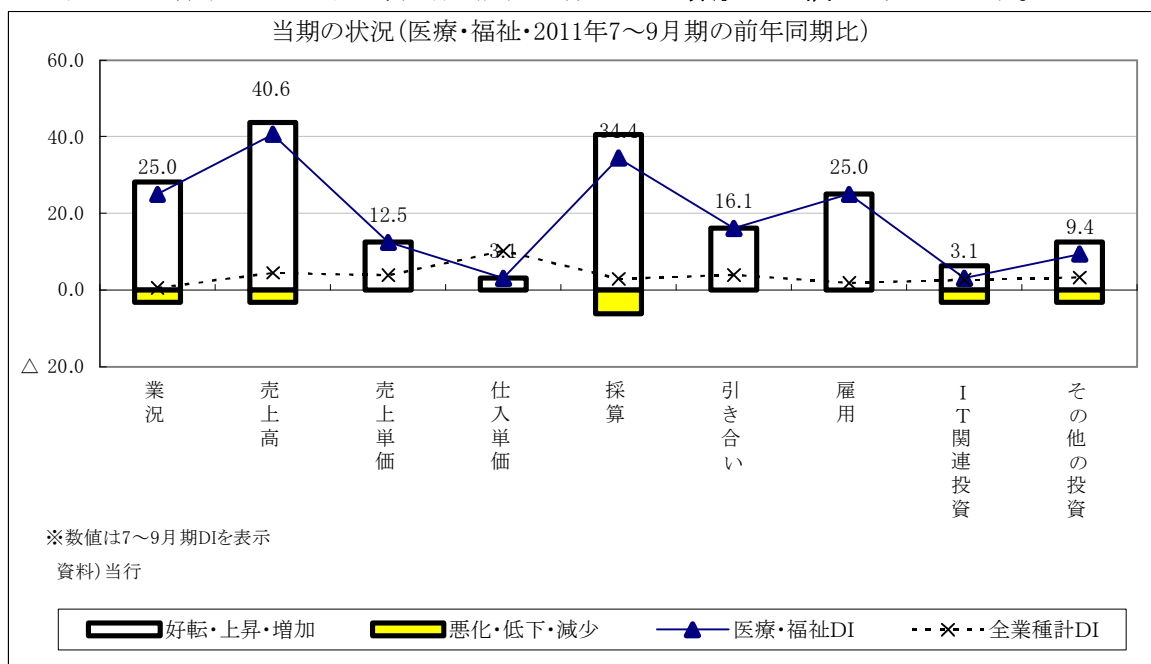
来期の見通しDIを見ると、震災の自粛ムードが和らぎ、復興需要による県外からの受注など、通信・放送・情報サービス業の回復が期待されます。また、引続き防災関連の需要増加を見込むなど、情報通信サービス業全体として**業況改善の動き**が見られます。



8. 医療・福祉

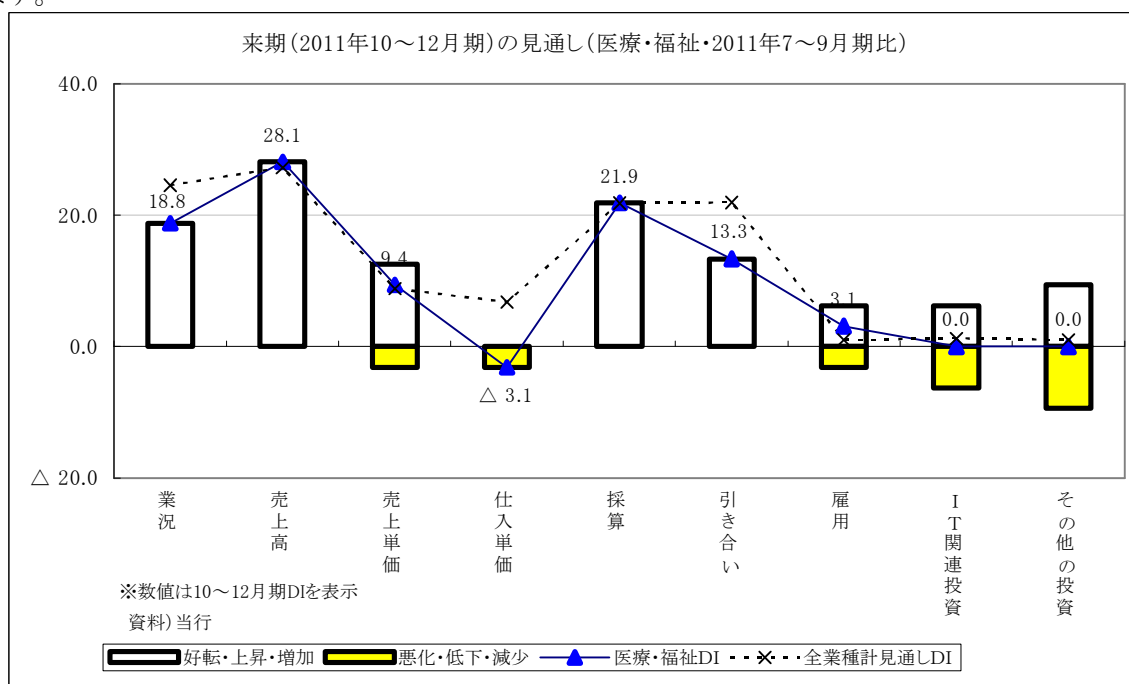
a. 当期の状況 (2011年7～9月期の前年同期比)

医療・福祉DIを見ると、震災の影響はほとんどなく、医療施設の経営環境は引続き順調に推移し、新たな診療所の開設や設備投資の動きが見られます。高齢者向けの介護・医療複合施設やデイサービス、人工透析など多様な医療サービスに取り組んでいます。新施設の増加に伴う新規雇用も増え、全ての項目が全業種DIを上回り、医療・福祉全体としては**業況の堅調さ**が見られます。



b. 来期の見通し (2011年10～12月期の2011年7～9月期比)

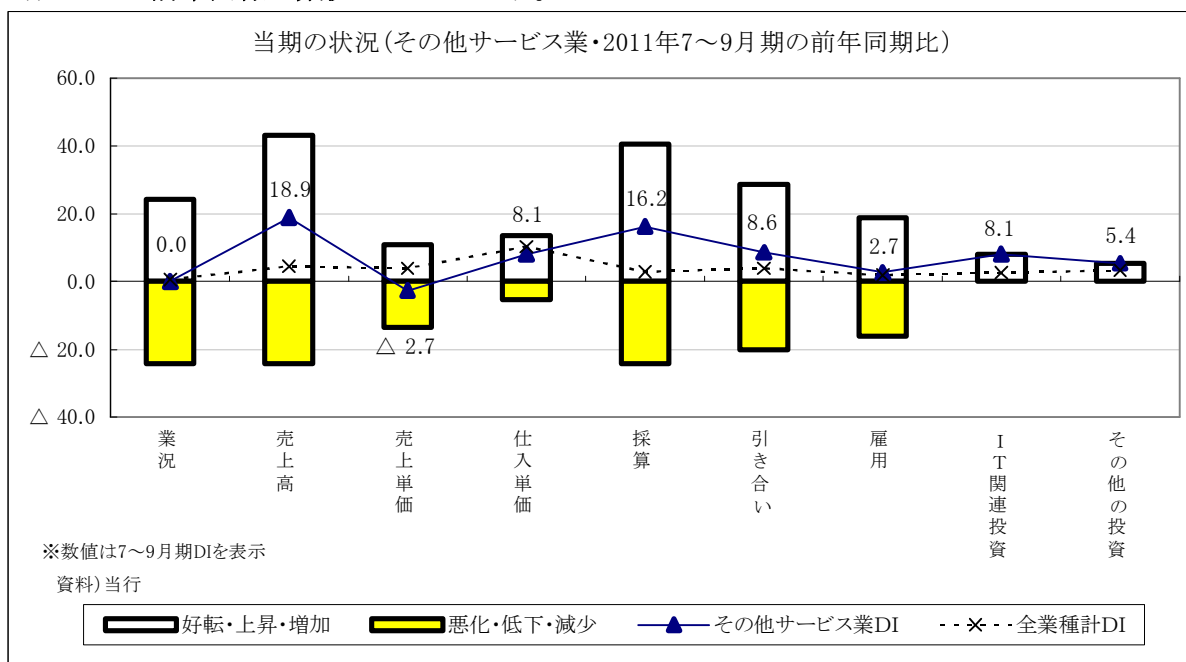
来期の見通し医療・福祉DIを見ると、政府や県などの政策動向を注視しつつ、一部高齢者向けの専用賃貸施設の建設や医療施設の投資などが見込まれます。また、季節の変わり目による外来患者の増加や米軍関連の検診なども見込まれ、医療・福祉全体として引続き**業況の堅調さ**が見られます。



9. その他サービス業(宿泊、飲食、ゴルフ場、遊戯場、映画館、結婚式場、教育関連等)

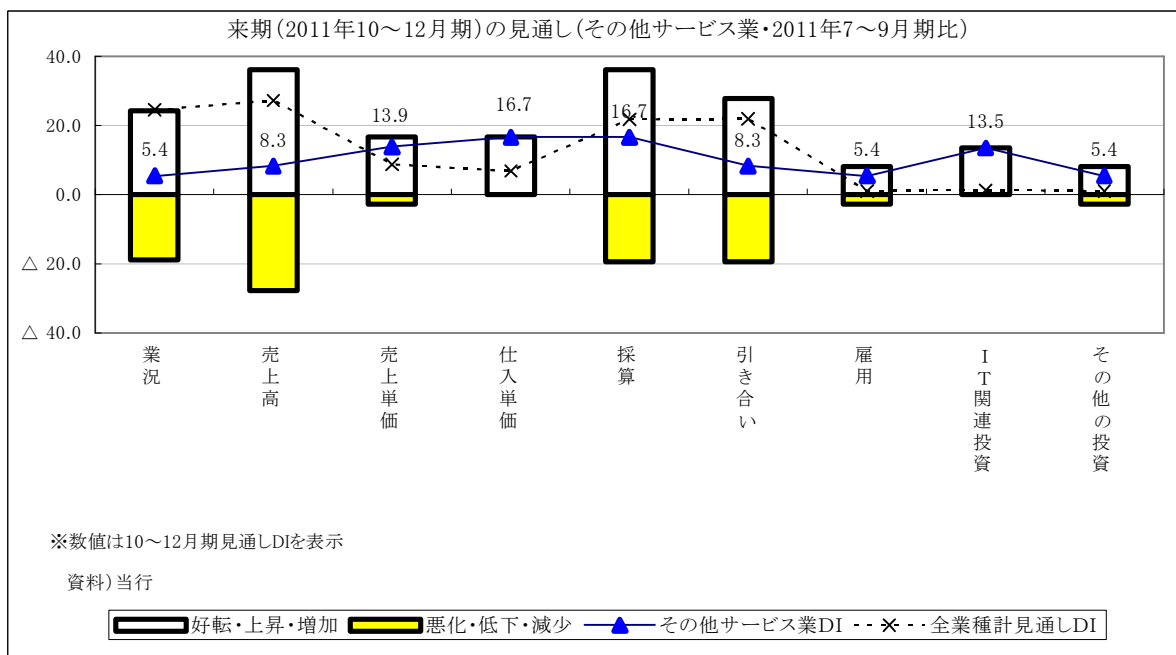
a. 当期の状況(2011年7~9月期の前年同期比)

その他サービス業DIを見ると、震災の影響は落ち着いたものの、一部、台風による天候不順や昨年開催された高校総体の反動などの影響を受けています。一方、リゾートウェディング関連産業はチャペル利用の推進や協会による誘客活動など活発に営業活動を行っています。その他サービス業全体としては前年同様の業況となっています。



b. 来期の見通し(2011年10~12月期の2011年7~9月期比)

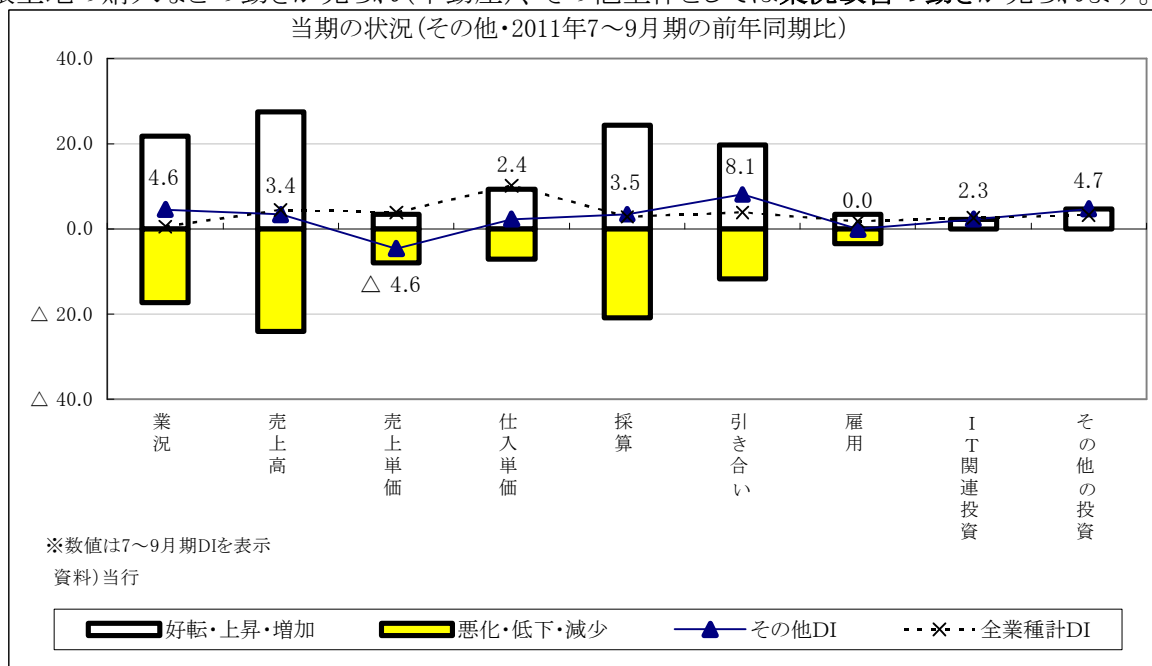
来期の見通し DI を見ると、夏場のトップシーズンによる反動減は懸念されますが、修学旅行の増加による観光客数の回復、ウェディング関連のトップシーズンによる需要増加など、例年通りの入込数を期待しています。その他サービス業全体として業況改善の動きが見られます。



10.その他(不動産、運輸、測量・設計コンサル等)

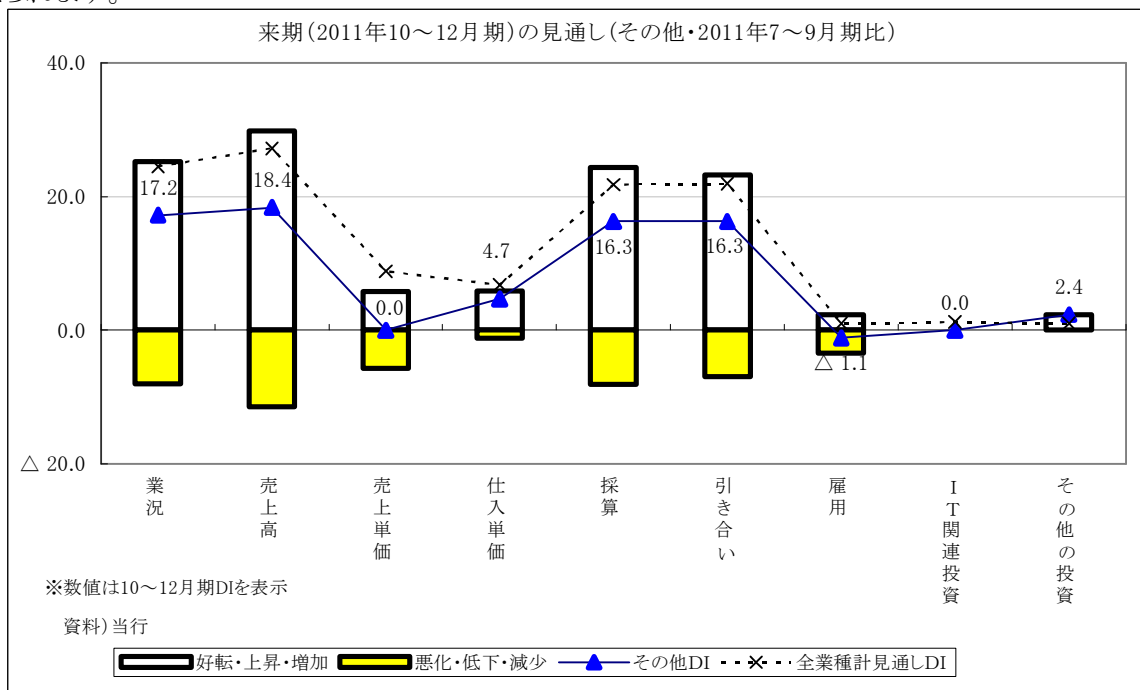
a.当期の状況(2011年7~9月期の前年同期比)

その他DIを見ると、原油高騰による仕入単価の上昇や台風による空・海便の欠航(運送業)、円高による売上高の減少など(米軍関連)が見られます。一方、株安による軍用地への投資や住宅用分譲土地の購入などの動きが見られ(不動産)、その他全体としては**業況改善の動き**が見られます。



b.来期の見通し(2011年10~12月期の2011年7~9月期比)

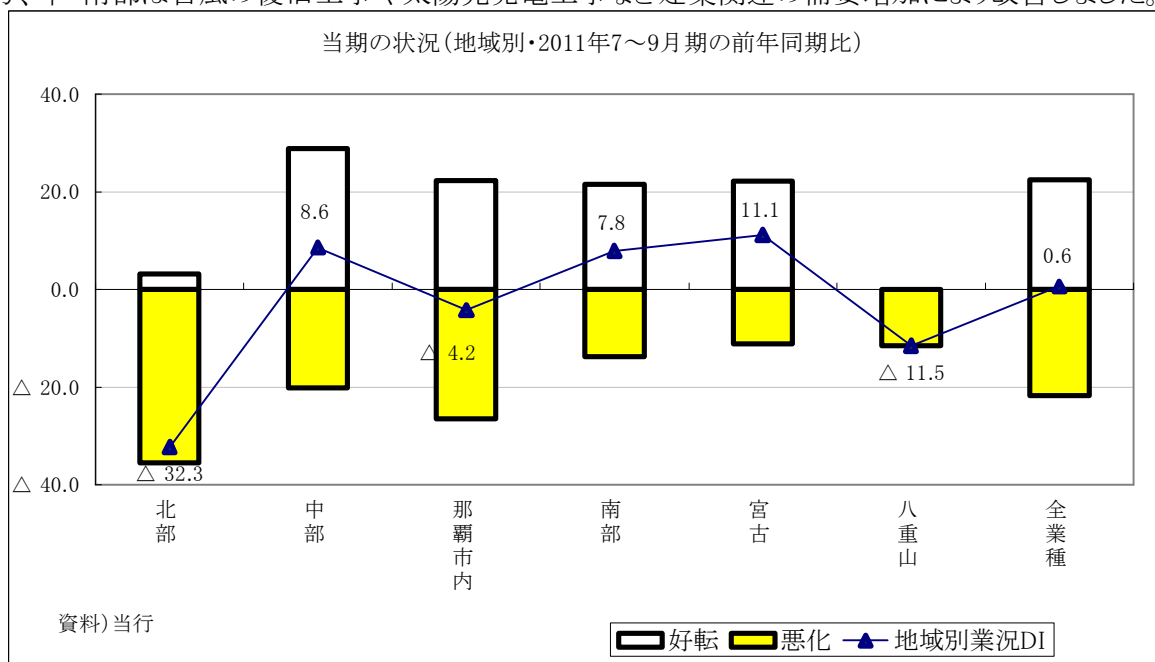
来期の見通しDIを見ると、公共工事の需要に伴う重機リースの増加、放射能検査の需要増加、耐震調査の需要増加など(環境・地盤調査、リース、測量など)が見込まれます。また、引続き不動産投資による取引の増加が期待されます(不動産、司法書士など)。その他全体として**業況改善の動き**が見られます。



Ⅲ. 調査結果(2) ～地域別の業況DI～

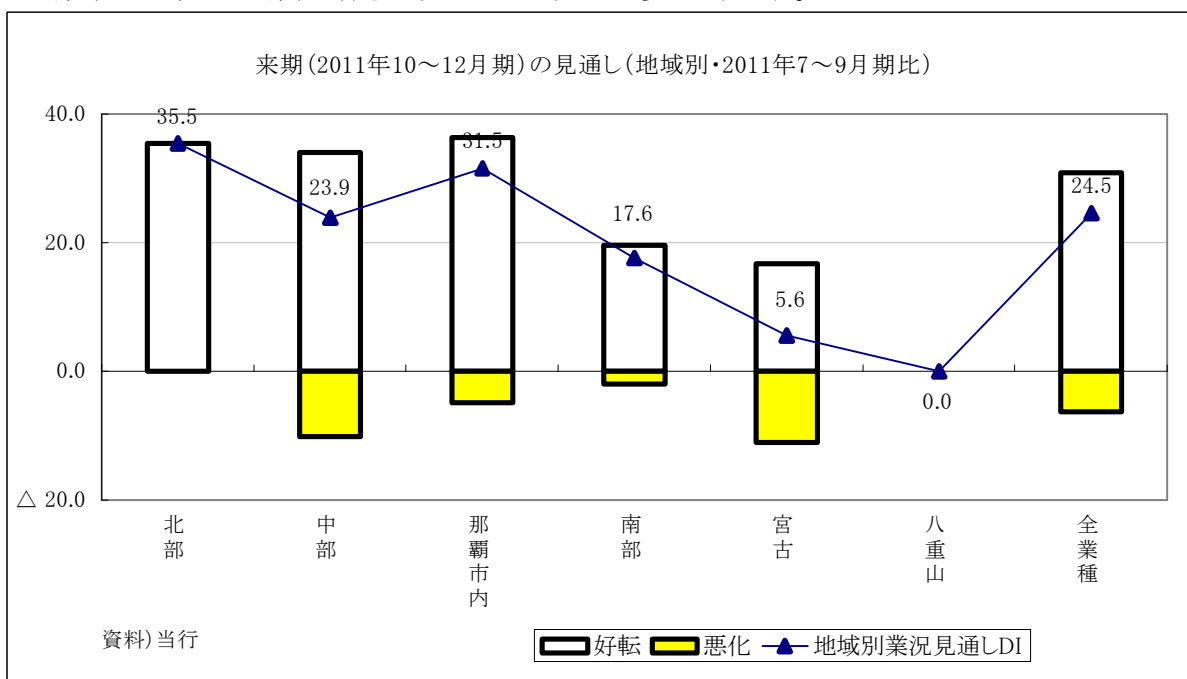
1. 当期の状況(2011年7～9月期の前年同期比)

地域別業況DIを見ると、全地域において、業況(0.6)は前年とほぼ同水準となりました。北部や八重山などは生コン製造や建設資材販売を含む公共工事を中心とした建設需要低下の影響で悪化し、那覇市内や八重山では、製造業、卸・小売業、サービス業などが台風による影響で悪化しました。一方、中・南部は台風の復旧工事や太陽光発電工事など建築関連の需要増加により改善しました。



2. 来期の見通し(2011年10～12月期の2011年7～9月期比)

来期の業況見通しDIを見ると、全地域において、修学旅行などの観光需要や年度下期における公共工事発注の増加など、各業種で好転が見込まれ(24.5)、八重山以外の地域で業況改善の動きが見られます。特に北部においては、公共工事の需要増加に高い期待を寄せています。八重山では当期(2011年7～9期)の業況と変わらない見方が多いようです。



IV.まとめ

【当期業況DI】

- ① 当期（2011年7～9月期）の業況DI調査の結果は0.6と、震災の影響が落ち着いた状況がうかがえ、僅かながらプラスへと転じました。
- ② 夏休みであるトップシーズンの観光関連産業は、震災に伴う自粛ムードが和らぎ、観光客入域客数が7月＝6.7%減、8月＝5.5%減（いずれも前年同月比）と台風など天候不順の影響があったにもかかわらず、減少幅の改善が見られました（4、5月は二桁減少）。
- ③ 建設関連では、公共工事の発注は年々減少しており、震災の影響は鎮静化したものの、原油高騰による原料仕入への負担が続き、製造、土木、卸など建設関連産業において厳しい結果となりました。
- ④ また、沖縄は強い台風9号によって、空・海便が相次ぎ欠航し、観光をはじめ、物流、農産物、建物などが多大な影響を受けました。これに伴う復旧工事の特需も発生しました。
- ⑤ 一方、震災に関連する耐震・防災の対策需要が増加し、節電・省エネによる太陽光発電工事の受注も増えています。
- ⑥ 総じて、2011年7～9月期は前年とほぼ同水準の業況となりました。

【来期の見通しDI】

- ① 来期（2011年10～12月期）の見通しDIについては、24.5ポイントとなりました。当期（2011年7～9月期）より改善されることが期待されています。
- ② 観光関連では、夏場のトップシーズン終了による反動減や円高による海外旅行の増加が懸念される一方で、東日本からシフトされる修学旅行などの観光客増加が期待されています。
- ③ 建設関連においても、資材価格の高騰は引続き影響しますが、下期に向けての工事発注量増加が見込まれます。
- ④ また、年末・お歳暮向けの食料品需要の増加や、高齢者向けの介護・医療施設の投資などが期待されています。

